モデルコース B 大阪城周辺の歴史と戦跡を訪ねる

（全 10 箇所 目安 2 時間 50 分 歴博見学 1 時間、ピースおおさか見学 1 時間を含む）

スタート地点　谷町四丁目駅（Osaka Metro 中央線・谷町線）

1. 大阪歴史博物館見学
2. 難波宮大極殿跡
3. 第八連隊碑
4. 第三十七連隊碑
5. 大村益次郎殉難碑
6. 越中井（細川ガラシャ死没地）
7. 森之宮遺跡（ピロティホール地下）
8. ピースおおさか（大阪砲兵工廠診療所跡）
9. 大阪府傷痍軍人会・同妻の碑
10. 爆撃跡が残る狛犬台座（森ノ宮神社）

ゴール地点　森ノ宮駅（JR 環状線・Osaka Metro 中央線・長堀鶴見緑地線）

ちょっと足をのばせば　京橋駅爆撃被災者慰霊碑があります。（JR 京橋駅南改札口付近）

モデルコース B 大阪城周辺の歴史と戦跡を訪ねる

（全 10 箇所 目安 2 時間 50 分 歴博見学 1 時間、ピースおおさか見学 1 時間を含む）

① 大阪歴史博物館

大阪歴史博物館は、“都市おおさか”の歴史や文化を実物大の模型や豊富な実物資料をもとに楽しく学べる博物館です。10～7階の常設展示で各時代を紹介、10 階では奈良時代の難波宮大極殿を実物大で再現、9階では江戸時代「天下の台所」の大坂を紹介。7階では大正から昭和の大大阪の様子を復元。展示にちなんだスタンプラリーやハンズオンなど催しも盛りだくさんです。

② 難波宮大極殿跡

7 世紀の孝徳天皇の時代に前期難波宮が、8 世紀の聖武天皇の時代に後期難波宮がと、2 度にわたって宮が築かれた。天皇の居所である内裏と重要な政務・儀式をとり行う朝堂院を中心に多数の建物が建ち並ぶ壮大なものであった。特に後期難波宮では大極殿と朝堂は凝灰岩で覆われた基壇の上に礎石を置いて建てられていた。現在、その基壇部分が復元されている。

③ 旧陸軍第八聯隊跡碑

歩兵第八連隊の兵営は、1874（明治 7）年の創設当初、現在の国立大阪病院の地にあったが、1897（明治 30）年、現在の難波宮跡に移転した。第三十七連隊とともに第四師団管下の基幹部隊となり、15 年戦争の間、中国、南方方面を転戦した。終戦までは、馬場町交差点から南の内久宝寺町通りの間、上町筋をはさんで東西に兵舎のコンクリート塀が延々と続いていた。

④ 旧陸軍第三十七聯隊跡碑

歩兵第三十七連隊は、1896（明治 29）年に創設され、兵営は、1898（明治 31）年、第八連隊が移転した跡に設けられた。第八連隊とともに、第四師団管下の基幹部隊となり、15 年戦争の間、中国、南方方面を転戦した。上町筋をはさんで歩兵第八連隊と歩兵第三十七連隊が東西に対置していた。

⑤ 大村益次郎殉難碑

大村益次郎は、明治新政府で軍隊の創設に尽力した人物。しかし 1869(明治2) 年 9月京都で襲われて重傷を負った。一命をとりとめ大阪へ移り浪華仮病院で治療を受けたが、そのけががもとで同年 11 月に死亡した。

この碑は、1940（昭和 15）年に建立された。この碑の南へ少し行った所に、浪華仮病院（現・大福寺）があった。殉難碑の発起人等には、林銑十郎（陸軍大将･第 33 代総理大臣）、東条英機（陸軍大将・第 40 代総理大臣）、鳥居信治郎（サントリー創業者）、坂間棟治（第9 代大阪市長）をはじめ、当時の政・経・軍・官の指導者が多く名を連ねている。

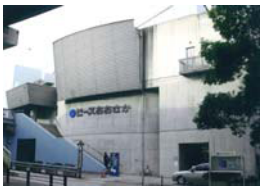
⑥ 越中井（細川ガラシャ死没地）

このあたりには秀吉政権下の大名細川（越中守）忠興邸があり、井戸は邸内にあったものといわれる。関ケ原戦の直前、忠興が家康に従い出陣中に、石田三成らは諸大名の妻子を人質にしようとした。忠興夫人玉子（洗礼名ガラシャ）はこれに従わず、この地で37歳の生涯を閉じた。玉子は明智光秀の三女としても知られている。近くの聖マリア大聖堂前には、細川ガラシャとキリシタン大名高山右近の像がある。

モデルコース B 大阪城周辺の歴史と戦跡を訪ねる

（全 10 箇所 目安 2 時間 50 分 歴博見学 1 時間、ピースおおさか見学 1 時間を含む）

⑧ ピースおおさか



第二次世界大戦末期の 50 回をこえる空襲により大阪は廃墟と化した。空襲の被害を記録し戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えるために、大阪府と大阪市が共同で設置。館内では、空襲の被害や戦時下の生活のようすなどを映像や実物資料・模型などで紹介。中庭には大阪空襲犠牲者の名前が刻まれたモニュメントがある。

⑩ 弾痕が残る狛犬の台座（森之宮神社）

森之宮神社は聖徳太子ゆかりの神社として知られている。1945(昭和 20)年、度重なる空襲によって被害を受け、焼け残った建物も 7 月の爆撃で失われた。その中で、森之宮神社の玉垣と狛犬だけが昔をとどめており、狛犬の台座には空襲の弾痕がはっきりと残っている。この狛犬はもとは青銅製であったが、金属供出で献納され、1944（昭和 19）年に石造りで再建されていた。

● 京橋駅爆撃被災者慰霊碑

1945（昭和 20）年 8 月 14 日、B29 爆撃機 145 機が大阪砲兵工廠に 707 トンの爆弾を投下した。1 トン爆弾 4 発が国鉄（現 JR）京橋駅に落ち、片町線ホームを 1 発が直撃し、数百人の命が奪われた。悲惨さに衝撃を受けた大東市の森本栄一郎氏が 1947（昭和 22）年 8 月 14 日慰霊碑を建立。その後、仏尊像と納経塔が建立され、毎年 8 月 14 日空襲のあったこの地で慰霊祭が行われている。